

二次障害の理解と対応

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所

植木田 潤

発達障害 と 二次障害の関連

いわゆる「発達障害」とは

- 広汎性発達障害（自閉症スペクトラム）
 - ◆ 高機能自閉症
 - ◆ アスペルガー症候群
- 注意欠損／多動性障害（ADHD）
- 学習障害（LD）

発達障害の「二次障害」について

発達障害の子どもたちは、

- 知的発達に遅れがないため、その特徴が周囲から理解されず、不適切な対応が生じる可能性がある
 - 理解不足により、否定的な評価や叱責等の不適切な対応が積み重なると否定的な自己イメージをもったり自尊心が低下したりする
 - そのことによって、情緒の不安定、反抗的な行動、深刻な不適応の状態等を招くことがある
- ◆ そのような **二次(的)な障害を軽減することが重要** である

発達障害の二次障害の分類

■ 外在化障害

- ◆ 極端な反抗、暴力、家出、反社会的犯罪行為など
- ◆ 行動上の問題として、他者に向けて表現する
 - 反抗挑戦性障害、行為障害など

■ 内在化障害

- ◆ 不安、気分の落ち込み、強迫症状、対人恐怖、引きこもり等
- ◆ 情緒的問題として、自己の内的な苦痛を生じる
 - 分離不安障害、社会不安障害、気分障害、強迫性障害等

発達障害の二次障害の現れ方

- 発達障害に併存して、他の症状や疾患が生じる場合
 - ◆ 「〇〇障害」「〇〇症」といった心身症や精神疾患等の問題
 - ◆ 行動上の問題や情緒的な問題
- 発達障害の本来的な特性が著しく強く現れる場合
 - ◆ こだわりやパニック、不注意や衝動性、学力や意欲の低下など
 - ◆ 行動上の問題や情緒的問題

問題の種類 = 表現型

※「問題」は、排除したり除去したりすべきものではなく、子どもと教師や保護者との間に、どこか(なにか)がうまくいっていないサインだという視点が必要

■ 行動上の問題

- 非社会的な行動 → 不登校・引きこもり等
- 反社会的な行動 → 非行、暴力、怠学等
- 神経性習癖

■ 身体的な問題

- 心身症

精神疾患(心の病)は心身両面に関わる

■ 心理的な問題

- 神経症(不安障害)

■ 発達障害の特性が著しく強く現れる問題

二次障害と関連した 精神医学的な問題

1. 不安障害

- ◆ 全般性不安障害
- ◆ 社会恐怖(社会不安障害)
- ◆ 分離不安障害
- ◆ パニック障害
- ◆ 強迫性障害

2. 適応障害

3. 身体表現性障害

- ◆ 転換性障害
- ◆ 小児心身症

二次障害と関連した 精神医学的な問題

4. 気分障害

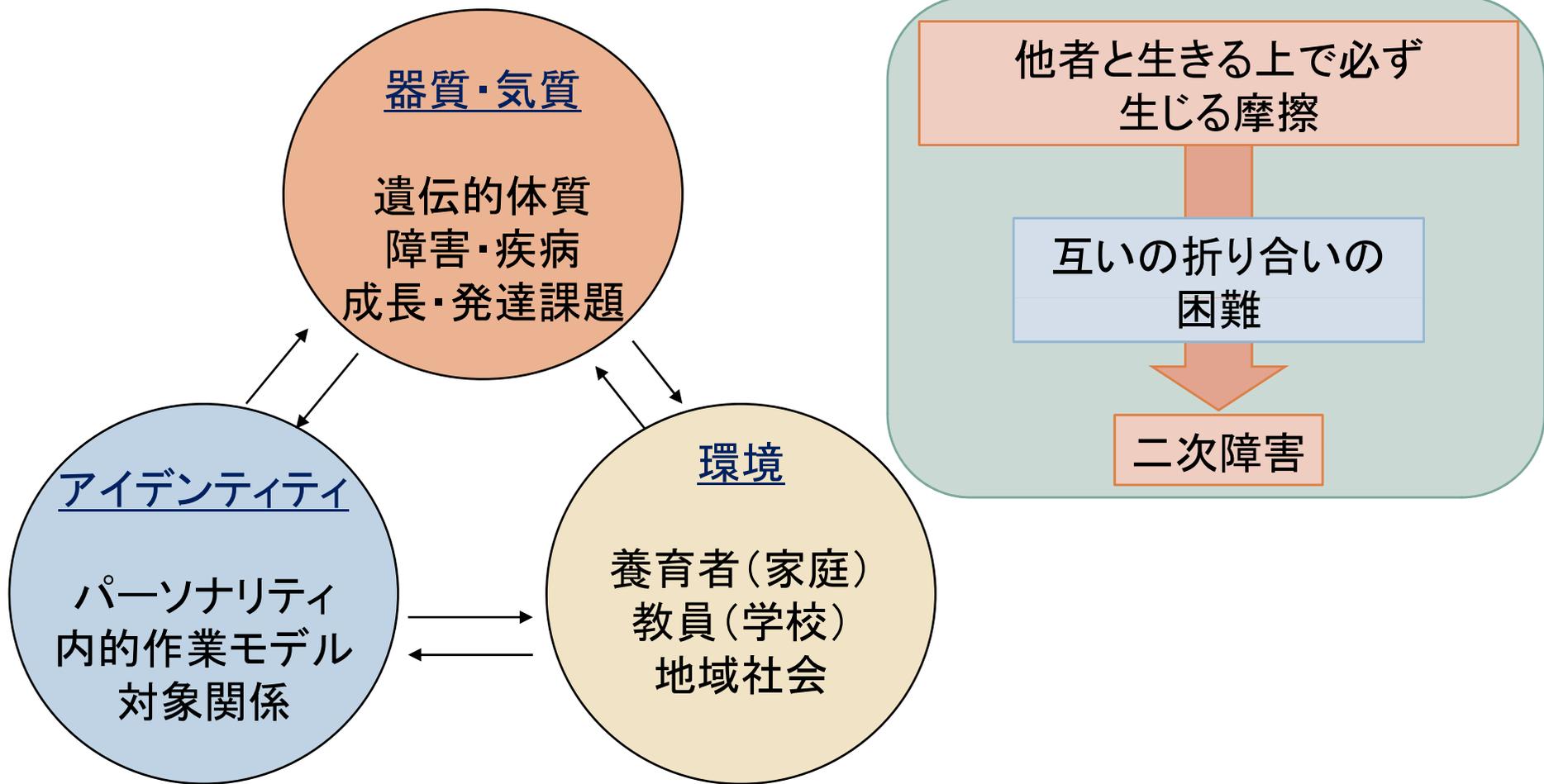
- ◆ 大うつ病性障害
- ◆ 気分変調性障害

5. その他の疾患

- ◆ 統合失調症
- ◆ 反抗挑戦性障害 と 行為障害

発達障害のある子どもの指導と対応

二次障害 理解のための3つの観点



3つの要因それぞれの相互作用

学びを支える 3つの「心理」発達

□ 知・情・意... 3つのバランスが重要

◆ 認知の発達

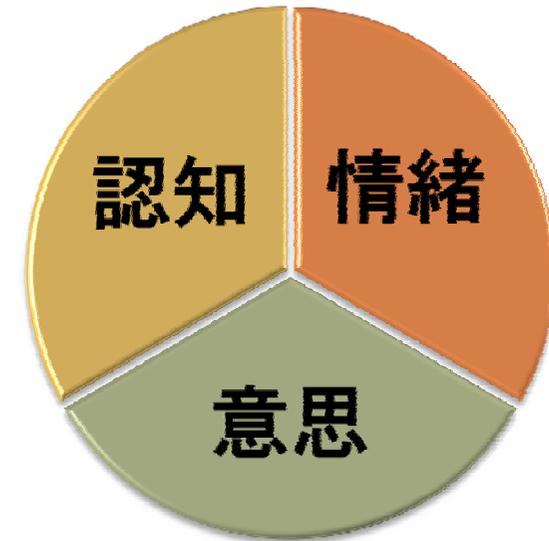
- 視覚優位、聴覚優位
- 注意、記憶... etc.

◆ 情緒の発達

- 安心、自信
- 自己調整... etc.

◆ 意思の発達 (実行機能)

- 主体性・能動性
- 動機付け、意欲、探究心
- プランニング、切り替え(柔軟性)... etc.



「自己 identity」の形成

情緒障害のある子どもの「心の成長」に 不可欠な前提は？

①「安全感・安心感」の保持

- アタッチメント(愛着)の確立と安定化

② 自己の「情動・覚醒レベル」の調整

- 自己調整の力の獲得と定着

内的圧力の高まり と 外的環境にあるストレスの均衡を保つ



「安全感を得れば、ヒトは外界の探索へ向かう」傾向を持っている

- 知らないモノやコトを知ろうとする「学び」へと向かう

経験から「学ぶこと」について

■ 「学ぶこと」の前提

- ▶ ヒトは生まれながらにして「知らないモノを知るモノにしたい」という欲求(知識欲本能)を持っている
 - ▶ 乳幼児期からの 好奇心、興味・関心 → 「学び」へと向かう源

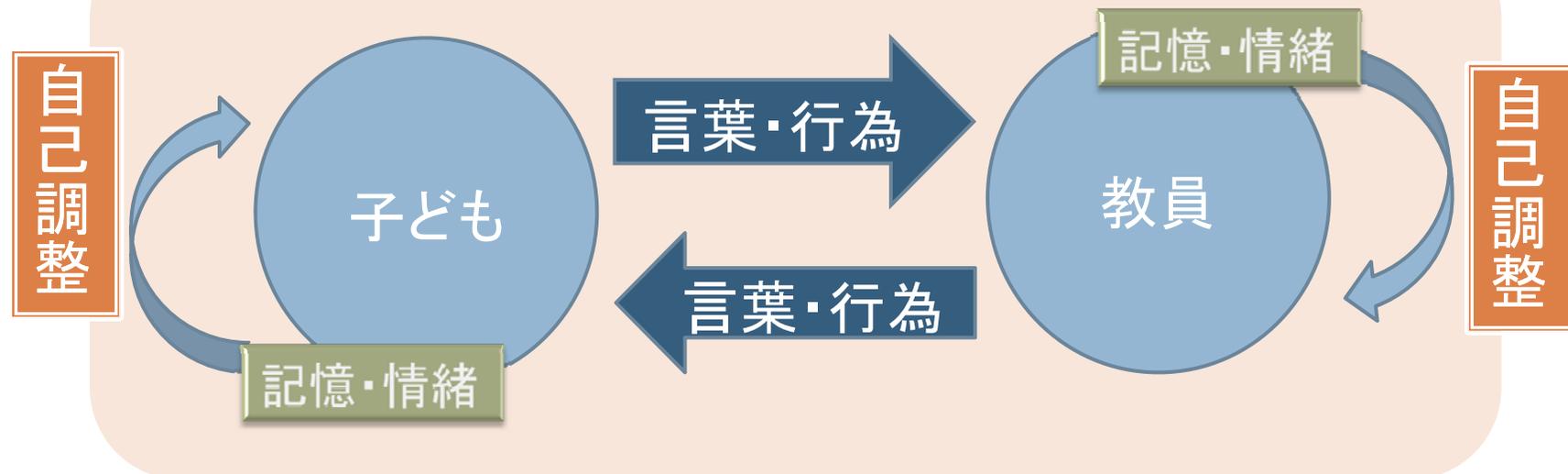
■ 学習の原型は... 乳幼児期の「授乳ということ」にある

- ▶ 身体レベルの授乳
 - ▶ 食物を取り入れ、消化・吸収すること
- ▶ 心のレベルの授乳
 - ▶ 安全・安心、心地よさ を取り入れ、消化・吸収すること

「学び」は 関係性という容器 の中で生じている

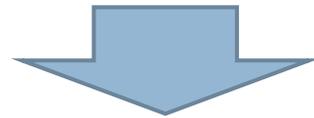
- ◆ 言語的・非言語的 な様式 で交流している
- ◆ 瞬間瞬間に湧き上がる記憶や情緒を自ら調整している
 - 自己調整 (Self-regulation) に支えられた「学びの関係性」

「学び」は関係性に依存した情緒的な体験である

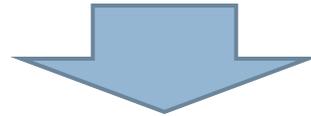


対応のポイントは？

- 認知発達の偏りだけでなく、情緒的な困難に注目する
 - 安全感・安心感の保持
 - 自己の情動・覚醒レベルの調整



- ◆ 教員と児童生徒の信頼ある関係性を土台にして情緒面の発達を支援していく



- 情緒的な困難が軽減されれば、児童生徒は「学び」へと向かう

情緒障害特別支援学級 情緒障害・自閉症通級指導教室とは？

- 情緒障害教育では、発達障害である自閉症などと心因性の選択性かん黙などのある子どもを対象としています。
- 主として心理的な要因による選択性かん黙などがある子どもについては、安心できる雰囲気の中で情緒の安定のための指導が行われています。
- 特別支援学級・通級による指導では、情緒障害のために通常学級での教育では十分に成果が期待できない子どもが在籍して、基本的には通常の学級と同じ教科等を学習しています。選択性かん黙などの子どもは、心理的安定や集団参加に関することを学習しています。

引用文献・参考文献

- 齋藤万比古編 「発達障害が引き起こす二次障害へのケアとサポート」 学習研究社 2009
- 齋藤万比古編 「発達障害が引き起こす不登校へのケアとサポート」 学習研究社 2011
- ビディ・ヨーエル 「学校現場に生かす精神分析」 実践編 岩崎学術出版社 2009
- B・ビービーら 「乳児研究から大人の治療法へ」 岩崎学術出版社, 2008 の図を改変

二次障害の理解と対応

終わり

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所

植木田 潤

※この研修講義では「特別支援教育研修講座」の資料を使用しています。